

震災アーカイブの10年 －ひなぎくとの連携を通じて

国立国会図書館電子情報部主任司書
中川 透

令和2年度東日本大震災アーカイブシンポジウム

－これまでの10年とこれからの10年－

令和3年1月11日（月・祝） オンライン開催

震災後1年目（平成23年度）の主な動き①

平成23年 3月	・3.11 東日本大震災発災 ・ハーバード大学ライシャワー日本研究所が「東日本大震災デジタル・アーカイブプロジェクト」開始
5月	・ <u>東日本大震災復興構想会議</u> において「復興構想7原則」決定 ・「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(せんだいメディアテーク) 開設
6月	・「東日本大震災 写真保存プロジェクト」(Yahoo! Japan) 公開 ・「未来へのキオク」(Google) 公開 ・「東日本大震災・災害復興まるごとデジタルアーカイブス」(311まるごとアーカイブス) 発足
7月	・ <u>東日本大震災復興対策本部</u> 「東日本大震災からの復興の基本方針」決定
8月	・ <u>ハーバード大学ライシャワー日本研究所と「東日本大震災に関するデジタルアーカイブ共同事業に関する協定」締結</u>
9月	・東北大学が「みちのく震録伝」プロジェクト開始
11月	・ <u>平成23年度三次補正予算成立</u> ・「土木学会東日本大震災アーカイブサイト」公開
平成24年 3月	・「NHK東日本大震災アーカイブス」(日本放送協会) 公開 ・「農林漁業協同組合の復興への取組み記録」(農林中金総合研究所) 公開

<集中復興期間>

震災後1年目（平成23年度）の主な動き②

<国の方針>

5月 復興構想7原則 原則1

「…大震災の記録を永遠に残し、広く学術関係者により科学的に分析し、その教訓を次世代に伝承し、国内外に発信する。」

7月 東日本大震災からの復興の基本方針

5(4)⑥震災に関する学術調査、災害の記録と伝承(ii)

「…地震・津波災害、原子力災害の記録・教訓の収集・保存・公開体制の整備を図る。…こうした記録等について、国内外を問わず、誰もがアクセス可能な一元的に保存・活用できる仕組みを構築し、広く国内外に情報を発信する。」

11月 平成23年度三次補正予算成立

総務省「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト開始

⇒総務省と国立国会図書館が協力して、東日本大震災に関するデジタルデータを一元的に検索・活用できるポータルサイトの構築を目指す

<集中復興期間>

震災後2年目（平成24年度）の主な動き①

平成24年 4月	<ul style="list-style-type: none">・「ひなぎく」開発開始 総務省と国立国会図書館が分担開発・「震災関連資料コーナー」(岩手県立図書館)本オープン・「東日本大震災福島県復興ライブラリー」(福島県立図書館)設置
6月	<ul style="list-style-type: none">・<u>災害対策基本法の一部を改正する法律(平成24年法律第41号)公布・施行</u>
7月	<ul style="list-style-type: none">・「東日本大震災文庫」(宮城県図書館)設置
9月	<ul style="list-style-type: none">・「3.11忘れないFNN東日本大震災アーカイブ」(フジテレビジョン・FNN)公開・<u>総務省による「被災地域におけるデジタルアーカイブ構築・運用に関する実証調査」開始</u><ul style="list-style-type: none">運用モデル実証事業として、5つのアーカイブを構築<ul style="list-style-type: none">「あおもりデジタルアーカイブシステム」「河北新報震災アーカイブ」(河北新報社)「東日本大震災アーカイブFukushima」「みちのく震録伝」(東北大学)「陸前高田震災アーカイブNAVI」
平成25年 3月	<ul style="list-style-type: none">・「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」(国立女性教育会館)公開・「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」公開・「震災ライブラリーオンライン版」(東北大学附属図書館)公開

震災後2年目（平成24年度）の主な動き②

「ひなぎく」公開当初の連携アーカイブ（16機関21データベース）

- ・「東日本大震災 写真保存プロジェクト」
（Yahoo!Japan）
 - ・「未来へのキオク」(Google)
 - ・「NHK東日本大震災アーカイブス」
（日本放送協会）
 - ・「3.11忘れないFNN東日本大震災アーカイブ」
（フジテレビジョン・FNN）
 - ・「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」
（ハーバード大学ライシャワー日本研究所）
 - ・「震災文庫」(神戸大学附属図書館)
 - ・「日本原子力研究開発機構図書館蔵書」
 - ・「立教大学共生社会研究センター」
 - ・「CiNii Articles」(国立情報学研究所)
 - ・「JAIRO(現IRDB)」(国立情報学研究所)
 - ・「J-STAGE」(科学技術振興機構)
 - ・「カレントアウェアネス・ポータル」
 - ・「国立国会図書館インターネット資料収集
保存事業(WARP)」
 - ・「国立国会図書館雑誌記事索引」
 - ・「国立国会図書館蔵書」
 - ・「国立国会図書館デジタルコレクション」
- (総務省運用モデル実証事業)
- ・「あおもりデジタルアーカイブシステム」
 - ・「河北新報震災アーカイブ」(河北新報社)
 - ・「東日本大震災アーカイブFukushima」
 - ・「みちのく震録伝」(東北大学)
 - ・「陸前高田震災アーカイブNAVI」

<集中復興期間>

震災後3年目（平成25年度）の主な動き

平成25年 4月	・東北大学災害科学国際研究所と「国立国会図書館及び東北大学災害科学国際研究所の相互協力に関する協定」締結
5月	・総務省「震災関連デジタルアーカイブ構築・運用のためのガイドライン」公開 ・総務省「被災地域記録デジタル化推進事業」開始 H25 八戸、宮城 H26 久慈、郡山、浦安
8月	・【新規連携】「東日本大震災の記録 Remembering 3.11」(東北学院)
11月	・【新規連携】「赤十字原子力災害情報センターデジタルアーカイブ」(日本赤十字社) 【新規連携】「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」(国立女性教育会館) 【新規連携】「3.11震災文庫」(仙台市民図書館)
12月	・【新規連携】「NHK東日本大震災音声アーカイブス」
平成26年 1月	・【新規連携】「震災関連資料コーナー」(岩手県立図書館)
3月	・【新規連携】「わかりやすいプロジェクト(国会事故調)編」 【新規連携】「東日本大震災福島県復興ライブラリー」(福島県立図書館)

<集中復興期間>

震災後4年目（平成26年度）の主な動き

平成26年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「青森震災アーカイブ」(八戸市・三沢市・おいらせ町・階上町)※ ・「はまどおりのきおく」(いわき明星大学(現医療創生大学))公開
6月	・【新規連携】「市町村史に記された地震の記録」(埼玉県立浦和図書館)
7月	・【新規連携】「土木学会東日本大震災アーカイブサイト」
9月	・「東日本大震災 写真保存プロジェクト」(Yahoo!Japan)投稿機能終了
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(せんだいメディアテーク) ・【新規連携】「防災専門図書館蔵書」(全国市有物件災害共済会) ・【新規連携】「長岡市災害復興文庫」(長岡市立中央図書館文書資料室) ・【新規連携】「災害・文献データベース」(中越防災安全推進機構)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・「陸前高田震災アーカイブNAVI」(H25.3～)が閉鎖 (許諾を得られた権利者のコンテンツを「ひなぎく」へ移管)
平成27年 1月	・【新規連携】「農林漁業協同組合の復興への取組み記録」(農林中金総合研究所)
3月	・【新規連携】「niconico」(ドワンゴ)

<集中復興期間>

震災後5年目（平成27年度）の主な動き

平成27年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「久慈・野田・普代 震災アーカイブ」(久慈市・野田村・普代村)※ ・【新規連携】「郡山震災アーカイブ」(郡山市・富岡町・双葉町・川内村)※ ・【新規連携】「防災科学技術研究所自然災害情報室蔵書目録」
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」(認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「東日本大震災アーカイブ宮城」(宮城県及び県内市町村)※ ・【新規連携】「はまどおりのきおく」(いわき明星大学(現医療創生大学))
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「浦安震災アーカイブ」(浦安市)※
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「みえ防災・減災アーカイブ」(三重県・三重大学みえ防災・減災センター)
平成28年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・「あおもりデジタルアーカイブシステム」が閉鎖 (コンテンツは「青森震災アーカイブ」へ移管)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規連携】「福島原子力事故関連情報アーカイブ(FNAA)」(日本原子力研究開発機構)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「『復興・創生期間』における東日本大震災からの復興の基本方針」閣議決定。震災後5年間の「集中復興期間」終了

<復興・創生期間>

震災後6年目（平成28年度）の主な動き

平成28年 4月	・「復興・創生期間」(平成28年度～平成32年度)開始 ・熊本地震発災 ・岩手県が「震災津波関連資料の収集・活用等に係るガイドライン」策定
6月	・「NHK東日本大震災音声アーカイブス」が閉鎖 (「NHK東日本大震災アーカイブス」に統合)
9月	・「ひなぎく」システムリニューアル
平成29年 3月	・【新規連携】「放射線医学県民健康管理センターデジタルアーカイブ」(福島県立医科大学) ・「いわて震災津波アーカイブ～希望～」(岩手県)、 「茨城県東日本大震災デジタルアーカイブ」(茨城県)が公開

<国の方針>

「『復興・創生期間』における東日本大震災からの復興の基本方針」(平成28年3月閣議決定)

3. 復興の姿と震災の記憶・教訓(2) 震災の記憶と教訓の後世への継承

「・・・『国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)』との連携、県及び市町村等による震災・復興記録の収集・整理・保存の支援等を通じて、復興手法を始めとして復興全般にわたる取組の集約・総括を進める。」

震災後7年目（平成29年度）の主な動き

平成29年 4月	・「熊本地震デジタルアーカイブ」(熊本県)公開
5月	・「3.11いわてNPOチラシアーカイブ」(いわて連携復興センター)公開
6月	・福島県が「アーカイブ拠点施設(仮称)に関する資料収集ガイドライン」策定
8月	・「大槌町震災アーカイブ つむぎ」(大槌町)公開
平成30年 3月	・【新規連携】「いわて震災津波アーカイブ～希望～」(岩手県) ・【新規連携】「熊本地震デジタルアーカイブ」(熊本県)

震災後 8 年目（平成30年度）の主な動き

平成30年 6月	・大阪府北部で地震が発災
9月	・北海道胆振東部地震が発災
平成31年 3月	・【新規連携】「3.11いわてNPOちらしアーカイブ」(いわて連携復興センター) 【新規連携】「岩手県の自然災害と東日本大震災に関する資料リポジトリ」 (岩手大学)

<復興・創生期間>

震災後9年目（令和元年度）の主な動き

令和元年 9月	・岩手県で「東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMI)メモリアル」開館
12月	・「『復興・創生期間』後における東日本大震災からの復興の基本方針」閣議決定
令和2年 1月	・【新規連携】「災害写真データベース」(消防防災科学センター) 【新規連携】「『語り継ぐもの』中越地震データベース」
2月	・【新規連携】「震災ライブラリーオンライン版」(東北大学附属図書館)

<国の方針>

「『復興・創生期間』後における東日本大震災からの復興の基本方針」

1. 復興の基本姿勢及び各分野における取組 (3)復興の姿の発信、東日本大震災の記憶と教訓の後世への継承」

「・・・『国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)』との連携、国及び地方公共団体等による東日本大震災・復興記録の収集・整理・保存等を通じて、これまでの復興期間中に集約・総括される効果的な復興の手法・取組や民間のノウハウ等の普及・啓発を図る。」

<復興・創生期間>

震災後10年目（令和2年度）の主な動き

令和2年 7月	・【新規連携】「大槌町震災アーカイブ つむぎ」(大槌町)
9月	・福島県で「東日本大震災・原子力災害伝承館」開館
11月	・「農林漁業協同組合の復興への取組み記録」(H24.3～)が閉鎖 (「ひなぎく」へのデータ承継に向け、現在調整中)
令和3年 1月	・「ひなぎく」システムリプレイス
3月末	・「復興・創生期間」終了予定

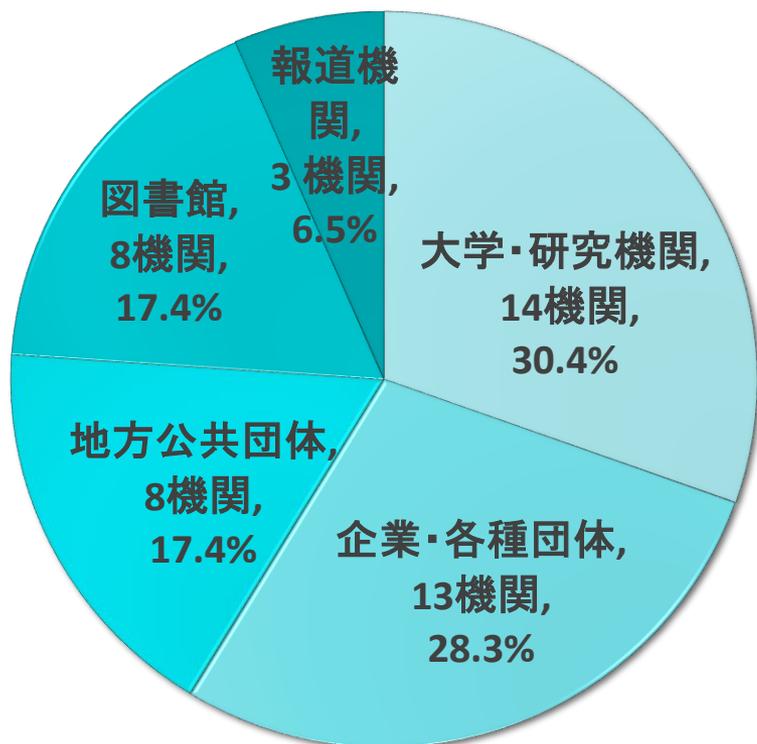
ひなぎくの現状

(国立国会図書館のデータベースを含む) 令和2年11月末現在

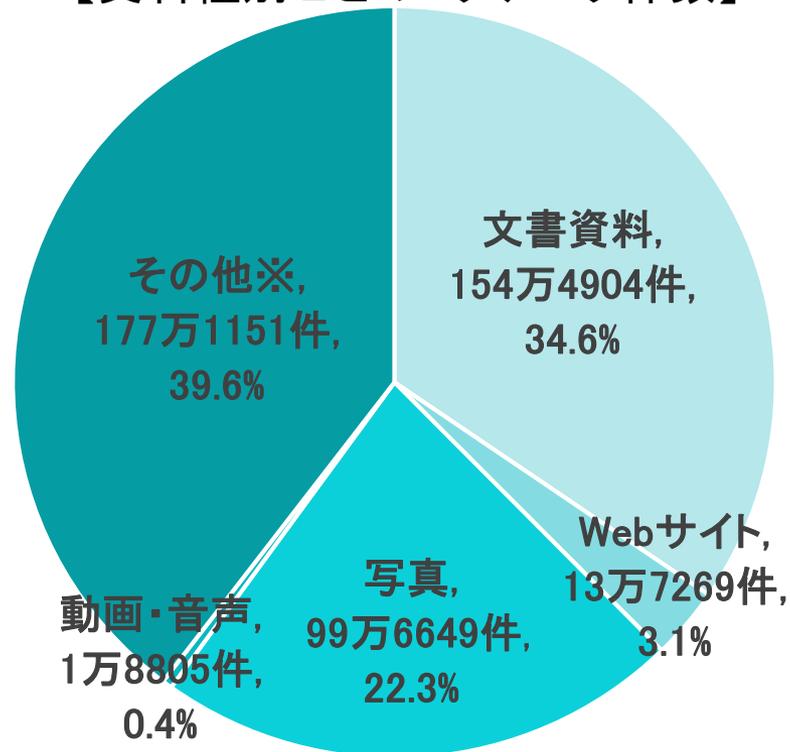
47 機関、53 データベースと連携

検索可能データ数: 約 **445**万件

【連携機関の内訳(NDL除く)】



【資料種別ごとのメタデータ件数】



※メタデータに資料種別の値がないもの。
大半を文書資料が占める。

ひなぎくの今後

国立国会図書館は、今後も「ひなぎく」事業を継続します。

○未連携アーカイブとの新規連携

現在、以下のアーカイブと連携に向けて調整中

「人と防災未来センター情報検索システム」（人と防災未来センター）

「災害記念碑デジタルアーカイブマップ」（防災科学技術研究所）

「震災アーカイブ検索」（いわき震災伝承みらい館）

「阪神淡路大震災 激震の記録1995 取材映像アーカイブ」（朝日放送テレビ）

○閉鎖アーカイブの承継対応

データ承継にあたっての権利関係処理が課題

※総務省「震災関連デジタルアーカイブ構築・運用のためのガイドライン」

第6章 震災関連デジタルアーカイブの権利関係の処理について

「新たに震災関連デジタルアーカイブを引き継ぐことになった機関等が、改めて権利者に対して許諾を得なくても、震災関連デジタルアーカイブ内にあるコンテンツを継承先のアーカイブ内で引き続き利用できるようにしておくことが重要です」（https://www.soumu.go.jp/main_content/000225132.pdf）

ひなぎくから見た震災アーカイブの課題

○メタデータの充実

- ・あるコンテンツがあっても、背景情報を理解できるメタデータがないと、これがどう震災に関係あるのかわからない。

⇒メタデータがリッチであることが重要。

- ・アーカイブによってメタデータ付与の粒度等にばらつきがある。

⇒多様な記録について、メタデータを一定の基準で付与することの困難さ。

○各アーカイブの継続性

- ・各アーカイブでは、各地域、機関の特性を踏まえ、メタデータ同士の関係性を示す独自分類の付与やカテゴリ検索など、収集したコンテンツの見せ方を様々な形で工夫している。

- ・「ひなぎく」への閉鎖アーカイブの承継にあたっては、そのような工夫が捨象されてしまう。

⇒各アーカイブには独自の意義がある。各地域、機関の特性を踏まえて、それぞれ継続・発展していくことが望ましい。

ご清聴ありがとうございました。



<https://kn.ndl.go.jp/>

ご意見、お問い合わせは、

hinagiku@ndl.go.jp まで